



学校教育目標  
自分と相手を大切にし、  
考えて行動する名瀬っ子

# 名瀬小だより

## 5月号

令和8年4月30日  
横浜市立名瀬小学校  
校長 宮崎 博隆



## 心を寄せる

副校長 菅原 明子

新緑の季節となりました。イルカ門の両側はつつじの花が満開となり、プール横の藤棚では、本校校章でもある藤の花が登下校で通る子どもたちを見守ってくれています。保護者の皆様におかれましては、新年度の様々な準備にご協力いただき心より感謝申し上げます。また、先日の授業参観・懇談会にご参加いただきありがとうございました。5月を迎える今、どの教室においても子どもたちは、日々、その子らしさを発揮させながら学校生活を送っています。

6年生は、1年生が学校で安心して過ごせるように登校や朝の支度、給食の片づけ等の支援を続けています。1年生の目線までしゃがんで優しく語りかけている6年生と自分でできるようになろうと頑張っている1年生とのやりとりは、ほほえましく、毎日、教室にはゆったりとした優しい時間が流れていました。

「1年生を迎える会」では全校が体育館に集まり、1年生に「ようこそ名瀬小学校へ」という気持ちを様々な表現方法で伝えました。各学年からの温かい言葉や歌声、工夫されたクイズや動画も素敵でしたが、私がいちばん印象的だったのは、子どもたち一人ひとりがこの会に参加する姿でした。話し手の問いかけに反応し、楽しい場面では大いに笑いあい、聴きあう場面では体育館が自然に静かになりました。全校が1年生に心を寄せ、仲間として一緒に過ごすことを楽しんでいました。1年生にとっては、1時間という長い時間でしたが、身を乗り出して会の様子に見入っていました。最後には6年生からの「1年生の皆さん楽しかったですか」という問いかけに思わず大きな声で「楽しかったです」と答える場面もありました。1年生にとっても全校に温かく迎えてもらえたことを実感できた心地よい時間だったことと思います。

ここで紹介した姿は「ていねいな生活」を日々積み重ねている中で育まれている名瀬っ子の姿といえます。そこには、相手に心を寄せる、温かさがあります。温かな関係性の中で、子どもたちは安心してぐんぐん力を発揮していくことでしょう。そこには「ありがとう」の循環も自然と生まれます。相手に心を寄せ、自分から問いかけたり答えたりする、行動する力にもなっていくことでしょう。

名瀬小学校では、教職員一同、「チーム名瀬」として保護者や地域の方とともに学校目標「自分と相手を大切にし、考えて行動する名瀬っ子」をめざして教育活動を進めてまいります。地域の皆様、保護者の皆様のあたたかいご支援をよろしくお願いいたします。